

《小学生の部》

佳作（警察庁交通局長賞）

香川県高松市立円座小学校

1年 山崎 椋太

ぼくのとうこう

「りょうたのおかあさんは、いつまでいっしょにとうこうするの。」

あさ、ぐうぜんあったともだちにしつもんされましたが、ぼくはへんじができませんでした。五がつになるとじぶんだけでとうこうするこがふえてきました。

そのひのよる、おかあさんになぜいっしょにとうこうするのかしつもんしました。

「しんぱいだから。でもそれだけではないんだよ。みんなあんぜんにこころがけているとおもうけど、もし、じこやけがをしたときにどうたいおうする。たとえばじてんしゃとぶつかったとき。ともだちがようすいろにおちたとき。」

ぼくは、

「ほけんしつまではしってたすけをもとめる。」

とこたえました。

「たすけをもとめるのはたいせつだね。でもがっこうからとおかったり、うごけられないときはどうする。」

ときかれて、なやみました。

そのあと、かぞくみんなでつうがくろのきけんなばしょや、じこやけがをしたときにどうたいおうするかもはなしました。ぼくがじこやけがのないようにできることは、きけんなばしょをしっておくこと。そして、まわりをよくみること。ふあんなときはいちどたちどまることだとおもいました。もし、ふあんなことがあってもたくさんのちいきのひとや、おにいさん、おねえさんがみまもってくれています。

とうこうちゅう、しょうがっこうのちかくのおうだんほどうでおかあさんとおわかれです。ぼくはもう、ひとりでとうこうできます。でも、おかあさんとむしやはなのはなしをしながらいっしょにとうこうするのがたのしみです。

おうだんほどうにちかづくところちようせんせいや、ちいきのかたがまいあさみまもってくれているのがみえてきます。

「おかあさんいってきます。」

「きょうもたのしんでおいで。」

と、いつものハイタッチをしておうだんほどうをわたります。きょうもみんなにみまもら

れながら、げんきにがっこうへいきます。